

資料6 3年の授業案から (部分掲載)

アンケートの結果から

1. 進路希望状況
 磐城高校 1名 浪江高校 7名 相馬農業 1名
 小高工業 5名 好間高校 1名 小高商業 4名
 双葉高校 10名 原町高校 4名 就職 1名

2. 高校について知りたいこと ※数字は解答の延べ人数
 ア 学習内容(カリキュラム) イ クラス編成 ウ 部活動
 エ 進路状況(進学,就職について) オ 男子女子の人数比
 カ 学校行事 キ その学校の歴史,伝統 ク 通学方法
 ケ 学科の特徴 コ その他

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
浪江高校	15	13	17	8	6	19	3	3	2	2
双葉高校	18	7	17	9	2	17	6	6	2	3
双葉農業	14	6	14	5	7	16	3	4	4	1
小高工業	15	7	17	10	8	17	3	8	5	2
小高商業	15	3	15	10	7	15	6	6	5	2
原町高校	19	7	18	10	6	15	7	10	1	2

3. 職業について知りたいこと ※数字は解答の延べ人数
 ア 職種 イ 初任給 ウ 待遇 エ 仕事の内容 オ その他
 21 18 10 24 1

生徒の実態 (部分掲載)

本時の目標 自分の進路選択との関連において、希望する進路先の調査の必要性を自覚させ、調査の結果に基づいて、選択できるようにさせる。
 (1)自分の知りたいことをワークシートにまとめることができる。
 (2)進路先について調査したことを発表することができる。
 (3)疑問点を解決し、さらに知りたいことをまとめることができる。

準備 フラッシュカード、発表用紙、ワークシート

本年度の現職教育副主題との関連 ○平成3年度本校現職教育 研究の視点2.ウの「将来の希望の実現に確実な手がかりを与える」に重点をおいた展開を図るため、進路について知りたいことを自分達の手で調べさせ、その生きた情報を進路選択に役立たせるようにする。

授業改善の視点 ○できるだけ生徒の自主的な活動が展開されるように配慮する。

の項目を設けて記述していくことにした。
 (資料6参照)
 事前指導において、進路先の調査では、進路先の相手からの直接的自料が必要なることを確認した。
 二学期(九月)に、一学年は題材「私たちの将来の希望」、二学年は「働くことと学ぶこと」、三学年は「進路先の調査」について授業を試み、学習活動の流れのすべての場面で生徒が前面に出る展開のしかたと、その事前指導のあり方について工夫し

ていく必要があることを確認した。
 (3) 第七回東北地区中学校進路指導研究大会の公開授業
 十月二十四日、会場校として、一学年は題材「働く人たちの仕事と考え」、「働く人びとのすがた」、二学年は「職業と産業」、「職業の内容の特色」、三学年は「進路先の調査」を公開した。
 生徒を学習活動において前面に出すための改善を進め、事前の指導と生徒の活動を充実させ、生徒の活動

資料7 計画委員会の活動(指導案より抜粋)

活動内容	活動の場	活動の主体	援助の手立て
(1) 身近な職業調べ	各家庭	各自	
(2) 職場ウォッチングの計画 ① 班編成、訪問先	各 各 各	各 各 各	訪問先だぶらないよう配慮。
(3) 職場ウォッチングの計画 ② 取材項目の決定	各 各 各	各 各 各	訪問先を選んだ理由確認。
(4) 職場ウォッチング ③ 取材内容の整理	各 各 各	各 各 各	事前に先方に依頼。分担して協力させる。
(5) 発表要項の作製	各 各 各	各 各 各	
(6) 発表要項の作製	各 各 各	各 各 各	
(7) 職業当てクイズの計画	各 各 各	各 各 各	設問の興味には援助を与える。
(1) 発表要項の計画的な掲示	各 各 各	各 各 各	
(2) 取材資料の中から、次時	各 各 各	各 各 各	各班にまとめてもらう。

五、研究の成果と今後の課題

進路指導研究大会の会場校として

計画、授業進行まで係わらせるようにした。その活動の過程では、職場ウォッチングや進路先の調査など調査先へ協力要請のもと、訪問する姿も見られ、学級生徒の計画委員会(学級運営委員会)は効果のある方策であることを確認した。(資料7参照)
 授業においては各学年ともに、生徒の活動がよく進められたこと、生徒一人一人に題材そのものが主体的に受け止められたことが確認できた。

- 決定してから一年半たらずの期間であり、授業の展開中心の試行錯誤的な進め方ではあったが、その中で成果として挙げられる点は、
- (1) 全職員が実践を通して改善を加えてきた年間指導計画を活用している。
 - (2) 指導案の様式を改善し、事前、事後に、活動の内容、場、援助の手立てを入れたことにより生徒の主体的活動が促された。
 - (3) 進路指導は「生き方」の指導・援助であり授業の事前の活動でも生徒が自ら事業所や高校に出向き、情報の収集にあたり、自ら解決しようとする姿に変わってきている。
- 課題としては
- (1) 生徒の自主的・実践的な活動を助長する学級活動を展開するには計画委員会を継続的に開催することにより、問題の解決に生かしていく態度を養う必要がある。
 - (2) 進路指導について①進路指導のさらに効果的な展開のあり方、②自己理解のための資料の蓄積と活用、③家庭・地域の連携の強化などの研究を深める必要がある。
- 残された課題の解決に向けて今後も着実な実践を積み重ねていく。